



通信

No. 57

2016年 早春号

発行：子育てサポートくるみ

住所：羽曳野市壺井 508-1

TEL：072-957-3282

FAX：072-958-4089

HP：<http://kosodate-kurumi.com>

新しい一年を迎えて

新しい一年が始まりました。子どもたちは、「大きくなる」ことへ心を膨らませているようです。それぞれの年齢で、春から秋に、仲間と共にたっぴりと遊び、体も心も大きくなっています。年明け、2・3・4・5歳児は自分たちで凧を作り、1歳児は保育者の作った凧を園庭や石川の河川敷であげて楽しみました。自分たちの作った凧が大空にあがり、飛ぶ様子に大歓声です。4・5歳の子どもたちは糸を引いたり、のばしたり、凧が落ちない様、糸を操っていました。また、クリスマスプレゼントにサンタさんからもらったコマも、器用に手指を使い、それぞれの年齢のコマを上手に回せるようになり、どの子も「コマ名人」と自信たっぴりです。野山を駆けめぐり、たくましくなった体と、たくさん使い動く手・指が、子どもたちの育ちを教えてください。



昨年、くるみは保育園認可に向けて大きく一歩を踏み出しました。子どもたちが「育つ」場として、くるみが存続できるよう、親も職員も思いをひとつにして動いています。

また、子どもたちや私たちをとりまく状況についても考えさせられる年となりました。学童の5・6年と沖縄に平和学習で訪れた際、平和ガイドの方の「戦争を他人事ではなく自分たちの事として考えてみて下さい」という言葉に、改めて戦争があったことを風化させてはいけないという思いを強くしました。

秋の研修では、職員が福島に行き、原発事故後5年を経過しても日常が取り戻せていない場所もまだ多くある、という現状を目の当たりにしました。さらに研修講演のひとつで、立命館大学名誉教授の安齋育郎先生がおっしゃった「鳥の目（トットの目）と虫の目（アリさんの目）」つまり「世界をまるごとわし掴みに見る目と現状をしっかりと見る目」という視点をもつことが大事だ、との一節が心に深く響きました。

子どもたちはこれから生きていく未来そのものであり、希望でもあります。今、未来のために何をすべきかが問われていると感じます。過去から学び、目の前のことだけでなく、先を見据え、子どもたちがのびのびと過ごせる環境を私たち大人が守っていくのだという気持ちを新たに、今年も力を合わせていきたいと考えています。

園長 山田 房江

保護者の声

○ 共同保育園の醍醐味（中村 奈緒）

「お母ちゃん、ほんとに大丈夫？くるみは親にとってはほんと大変なところだよ」

4月から父ちゃんの単身赴任が決まっており、妊娠7ヶ月だった私に、入園説明の時に山田園長が念押しするように言った言葉を今思い出している。

自信満々に大丈夫ですと答えた日から2年目の冬。まだ入園願書¹を出せずにいるとは。入園前、初めて園庭開放でくるみを訪れ園庭を見た時の胸の高鳴りは今も忘れない。月1のリズム遊びはもちろん園庭開放には毎週のように通った。くるみのことがとにかく知りたくて読みふけたHPのくるみ通信。保護者のコーナーには、“くるみに入れてよかった！”“親子で成長できた！”そんな声や、保育所を越えた家族同士の横のつながりに、自分もわが子の卒園時を想像して期待に胸を膨らませたりしていた。

が、予想外に早くもくるみ通信のバトンが回ってきた。入園願書が出せていないこの状況で何を書こう…断ろうとも思ったが、自分の気持ちを確認する機会を神様が与えてくれたのだろうか…そんな思いでPCに向かった。

入園一年目は、一言で無我夢中。就寝時間、食事、テレビのない生活、その他もろもろ。言われることを、とにかく完璧に守ろうとした。…結果、母ちゃん鬼嫁ならぬ鬼母に豹変。

「くるみに入ったら、くるみっこになれる！」そんな錯覚に陥っていた。が、現実はそう甘くなく、他の子の就寝時間を見て焦り、わが子のマイペースさに焦り…周りの子はみんな自立しているように見えた。わが子の姿を、勝手に作り上げた理想のくるみっこ像越しにしか、見られなくなっていた。完ぺき主義が空回りしていった。

くるみへの入園と共に平日は母娘2人生活がスタート、6月には妹の誕生。この環境の変化と、母の焦りが、徐々に長女を苦しめていたのか、家では反抗期が一気にきたかのように荒れまくった。ひどい赤ちゃん返りがきたと思っていた。アトピー体質だった皮膚も悪化し、ストレス＝皮膚の悪化だと自分を責める日々。親子共にしんどい毎日だった。そんな中、次女の離乳食など相談をしていた時に「一緒に子育てを学んでいこう」という職員さんの言葉に一時心が救われ、この状況を変える良い機会になるのかもしれない…と次女を11ヶ月で入所させた2年目。しかしここでもまた、いきなり増えた洗濯の量、姉妹の微妙な生活リズムのずれ、やまどりになっても、朝の大泣きに加え、今まで見せたことなかった噛みつき…変わらない、落ち着かない長女の姿をなかなか受け入れられなかった。だんだんと、くるみに入ったことに自信がもてなくなっていく。そこに夏物品、カレンダー…どんどん否定的になっていく思考。毎週欠かさず帰ってきてくれる父ちゃんも、母ちゃんのそんな姿から、いつのまにか不信感を抱くようになって

¹保育の継続を希望する家庭が、入園後も毎年提出する願書

てしまい週末はいつのまにか夫婦でくるみ会議。

“このまま続けていけるんだろうか。” “まわりはもっと気楽に幼稚園に預けているのに。”

“自分たちはどんな子育てをしていきたいんだろう。”

自分でも改めて考えて、週末は夫婦で話し合っ。なかなか答えが出せず、他の近隣の幼稚園や保育所も偵察にしてみるものの、初めてくるみの園庭を見た胸の高鳴りはどこに行っても感じなかった。

あ～やっぱりあの園庭、好きやな～（…私が）

運動会なんてほんま楽しいし（…私が）

給食やおやつはおいしいし、安心やし…（私が）

リズム遊び、きれいじゃないし（どちらかと言えば好きやし…私）

毎日四季を感じながらお散歩できる周りの環境も、こどもが歌ってくれる歌も、くるみの子どもたちが描く絵も…これだけ“好き”があるところ、他にあるやろか？頭で考えてもわからない、直感だけだけど。あとは、子どもを信じて、保育所を信頼する…。そこか！？

これだけ辛い日々を振り返ってみたが、現在2人の娘たちは笑顔でくるみに通っている。長女は最近「もう3月終わった？」と、たかさんになることを心待ちにするようになった。

なんだかんだ母が悶々としている間にも子どもたちは日々たくましく育っている。

きっと子どもはどんな状況でも育っていく。それぞれペースは違うけれど。特別な保育園に入れたからと言って特別な大人に育つとは限らない。大事なものは、親がその保育園をどれだけ信頼できるか。預けっぱなしでなく、共に育てていく思いでいられるかなのかもしれない。“共に育てる”くるみではそれができるんじゃないか。自然あふれる環境のもと、伸び伸びと子どもらしく子ども時代を過ごしてほしい。くるみやったら出来る。

（だって他に探してもないんだもん…）

弱音を吐いているのは…覚悟ができていないのは…母だけだったのか。（父ちゃんはまだ不安なようだけど、母ちゃんがこれだ！と突き進めばサポートしてくれるはず…よね？）

今回、入園を改めて考えることが、今一度自分自身と向き合うきっかけになっている。

そして夫婦間でも向き合っ子育てについて話し合うことができている。くるみに入っっていなかったら、夫婦でここまで話せていたのかな？（そしてこのタイミングでのくるみ通信）もう少し頑張ってみるか。いや、頑張るんじゃなく、逆にもっと肩の力をぬいてみよう。楽しんじゃおうか。くるみ保育所をもっと信頼して。「一緒に子育てを学んでいこう」この言葉にのっかろう。そのために、ささいな疑問も、ヘルプも、さらけ出して…みようかな…（年長なったらまた弱音を吐いてるかもしれないけど 笑）

その先に、先輩保護者の皆さんが口をそろえて言う、“親も子も成長できる”という景色が見えるのかもしれないな。

○ 保育園で学んだこと (杉本 亜紀)

私がくるみ保育園を知ったのは、羽曳野の保育園MAPでした。こんな近くに保育園があるんだと、何も知らずホームページを覗いたら、なんだか普通の保育園と違うような・・・特別な様でなかなか足が向きませんでした。そんな時にご近所さんのママさんとお友達になり、園庭開放へ行きました。園庭の広さと緑の自然の多さに異空間に来た様でした。子供たちはパンツにボロボロの半袖Tシャツ姿で泥んこ。そんな子ども達が思いっきり遊んでいました。いきいきと見えたのです。

1人目は何もかも分からず苦労しました。ずーっと抱っこしてご飯もろくに食べれず眠れず悩んでいました。保育園と関わることができ、睡眠と食事の大切さ、泥まみれに思いっきり遊ぶ大切さを知ることができました。睡眠と言えば旦那が20時に帰ってくるのでそこからお風呂に入っていましたし、食事も粉末だして味噌汁や煮物、加工食品、冷凍食品もたくさん使っていました。砂遊びも汚れない様にしていました。着替えも大人が着替えさせていました。くるみ保育園では1歳半から自分で着替えるようになるよと言われびっくりしたことも覚えています。みかんの皮は自分で剥かせる、1歳児なんてまだまだ赤ちゃん、何もできないと思っていたので、すべて親がしてあげることが子育てだとも思っていました。いろいろな事を学び、子育てが変わり始めきっと子供は戸惑ったと思います。赤ちゃんの教室に行ってみればよかったと今でも思います。

2人目は、マタニティの頃からの指導も受けました。マタニティでの過ごし方から赤ちゃんの抱き方など、その月齢ごとの接し方を事細かく知ることができました。2人目ということもありましたが、いろいろ教えていただいた事で子育てに苦はありませんでした。歩けるようになれば、たんぽぽひらいたの歌を歌いながら散歩もしました。近くの公園で小さな山から裸足で滑って遊んだり、転がったりしました。雨の日は家で上の子が先生となりリズムをしました。

今は2人目も入園することができ、毎日の生活の中に保育園の歌が入るようになり、睡眠も早寝早起き、食事もだしをとったり、自然派のお母さん方にいろいろ教えてもらいながら頑張っています。



[くるみで風揚げ]